

What determines the life satisfaction of the elderly? : comparative study of residential care home and community in Japan

著者	Han Kwee Ho
journal or publication title	博士学位論文要旨 論文内容の要旨および論文審査結果の要旨 / 金沢大学大学院医学研究科
volume	平成17年7月
page range	13-13
year	2005-07-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/15883

学位授与番号	甲第 1646 号
学位授与年月日	平成 16 年 9 月 30 日
氏 名	Han Kwee Ho
学位論文題目	What determines the life satisfaction of the elderly? Comparative study of residential care home and community in Japan (高齢者の生活満足度決定因子：介護付老人ホームと在宅高齢者の比較研究)
論文審査委員	主 査 教 授 荻 野 景 規 副 査 教 授 馬 淵 宏 教 授 藤 原 勝 夫

内容の要旨及び審査の結果の要旨

寿命の延長は「単に歳を重ねる adding just years to life」ことが加齢の意義ではなく、寧ろ「人生を歳に加える adding life to years」という新しい概念をもたらし、高齢者のライフスタイルの選択肢を多様化させつつある。そこで、高齢者の生活満足度に影響する因子を明らかにするために、機能的、医学的、社会的要因と生活満足度との関連を、介護付老人ホーム居住高齢者と地域居住高齢者間で比較検討した。

K市内のホーム居住者(261名, 79.6±6.6歳, 男性:女性1:3.1)とU町居住者(733名, 74.8±6.8歳, 男性:女性1:1.3)から質問紙を回収した。この人数は65歳以上全居住者のそれぞれ95.3%及び89.5%であった。質問項目はActivities of daily living (ADL)、高次機能、既往歴、個人歴、高齢者うつ尺度、quality of life (QOL)であり、高齢者本人が返答した。QOLの評価にはアナログ尺度を用い、多重ロジスティック解析により生活満足度に関連する因子を抽出した。結果は以下のように要約される。

- 1) 生活満足度は極めて主観的な尺度であるにも関わらず、ホーム居住者は地域居住者よりも高い生活満足度を示した。
- 2) 生活満足度はホーム居住者・地域居住者に関係なく、医学的・機能的要因よりも社会的要因に依存していた。
- 3) 生活満足度を高める両者に共通な因子は、実際の経済状態ではなく、「経済的に良好であると感じている」ことであった。
- 4) 地域居住者が友人との関係を重要視するのに対し、ホーム居住者は家族との関係を重要視していた。この違いは現在の環境条件の違いのみならず、社会的経歴にも強く依存していた。

医学的・機能的要因に比して、社会的要因は高齢者のライフスタイル、生活環境により大きく変動する。QOLの改善のための方策策定には異なる生活条件下でどのような社会的要因が生活満足度に影響しているのか考慮することが極めて重要であることを本研究は示した。

以上のように、本研究は、高齢化が進む日本社会において、より質を重要視した高齢者の保健・福祉のあり方を示す、社会医学上価値ある労作と認められた。